

第2回 海岸事業評価手法研究会

<議事要旨>

1. 日 時：平成 15 年 6 月 6 日（金） 15:00～18:00
2. 場 所：レストラン立山 B1F E 会議室
3. 出席者：肥田野登 座長、三村信男 委員、清野聡子 委員、鳥居謙一 委員、細見寛 委員（欠席：近藤健夫 委員）
4. 議 事：
 - (1) 第1回研究会の課題整理について
 - (2) 新規事業採択時の評価手法（案）について
 - (3) しきい値の見直しについて
 - (4) 感度分析の実施について
 - (5) 「公共事業評価システム研究会」への提言（案）
5. 議事要旨
 - (1) 第1回研究会の課題整理について
対応方針を了解する。
 - (2) 新規事業採択時の評価手法（案）について
 - 【三村委員】
 - ・ 事業効率（費用対効果）にもっと重みを付けた場合の感度分析も行ってはどうか。評価手法とは別に、今後の検討の参考になると思う。
 - 【清野委員】
 - ・ 海岸利用のしやすさの評価について、テーマ海岸による評価もあるが、個々の海岸計画の中で具体的な対策が盛り込まれているか、細やかな評価の必要があると思う。
 - 【事務局】
 - ・ 事業の趣旨を踏まえた形で、「それに相当するもの」であればよいと修正する。むしろ、省庁連携により利用のしやすさを実現する評価軸と考えていただければよい。
 - 【清野委員】
 - ・ 海辺のアプローチ性について、階段護岸ばかりになると人工的になり、場にそぐわなくなる危険性がある。
 - 【事務局】
 - ・ 「連続した階段護岸に限らない」という記述を追加する。

【三村委員】

- ・ 評価マニュアルに従うと画一的なデザインになるということではなくて、個々の海岸の条件に応じて配慮できるようにすべきである。

【鳥居委員】

- ・ アクセスの評価は、200m ごとという仕様を示すことより、「動線に応じたアプローチが確保されていること」といった表現もあると思う。

【事務局】

- ・ 何らかのしきい値が必要だが、表現については再検討する。

【清野委員】

- ・ 評価と並行して、どう配慮すべきかという整理、アドバイスする仕組みも検討する必要がある。

【三村委員】

- ・ 外国の海岸が美しいのは背後の砂丘を含めて保全されているのが大きな要因である。日本では海へのアプローチをよくするというと、砂浜ぎりぎりに駐車場を造るセンスとなっている。アプローチ改善のあり方についての検討も必要である。

【清野委員】

- ・ 場所により考え方が異なるとき、細かい点をどこまでサポートできる評価になるかが大事である。

【事務局】

- ・ すべての場面を網羅的に書くことは不可能なため、思想的なものをある程度解説のところに書き込むことで対処したい。

【鳥居委員】

- ・ 利用に関連する連携事業では、利用プログラムがしっかりしていることが前提となる。

【清野委員】

- ・ 自然の磯をつぶして二次的に形成された海岸生態系を観察するプラットフォームを作るという整備もあり、生態系保全としては本来的ではない。ソフト面の評価は大事であり、細かい点に配慮した計画の質を評価することが重要。

【肥田野座長】

- ・ 第3回研究会に向けてチェックリストを作成して、その項目をどれだけ満足しているかという評価を行ってはどうか。

【三村委員】

- ・ 当該事業に隣接する関連事業の状況の項で、都市計画・土地利用計画といった内陸側の計画との関連付けが重要である。また、海岸法改正に伴う広域的・長期的視点を、海岸保全基本計画や施設整備計画の中に取り入れる仕組みを作ることが重要である。

【事務局】

- ・ 海岸保全基本計画は全てが策定されてはいないので、評価項目に入れることは第一ステップとして意味のあるものと考えている。

【清野委員】

- ・ 計画策定にあたっては、プロセスを重視し、状況に応じた柔軟性をもった対応とすべきである。

【肥田野座長】

- ・ 計画に位置づけられるほかに、計画の質を評価するような項目またはチェックリストの作成を行うことが良いのかもしれない。同様に景観等をはじめとした項目についてもチェックリストが必要なかもしれない。

【事務局】

- ・ 小項目にチェック結果をぶらさげるという考えで、全体との整合を図りつつ前向きな評価を行いたい。

【三村委員】

- ・ 海岸の防災には、理想的には防護と撤退があり得る。海岸政策の中に、場所によっては撤退の可能性を含めて、長期的視点から考える仕組みが必要である。

【清野委員】

- ・ 保全計画について、時間・空間をフレキシブルに考えることで柔軟な対応ができる。
- ・ 防波堤の延伸など、明らかに海岸侵食が想定される場合の海岸事業の評価の考え方を整理する必要がある。
- ・ 自然再生や河口湿地の復元など地球環境保全に寄与するものはB / Cに入れてもよいと思う。また防災上にも寄与するならば、併せて評価すべきである。

【事務局】

- ・ 従前なかった環境影響をいかに回避するかということ以外に、自然再生に積極的に取り組む予定があるかどうかということも新たに加えている。

【肥田野座長】

- ・ 自然再生の取り組みについては、清野先生に原案を出していただきます。

【三村委員】

- ・ 順番としては、生物の多様性に資する空間の状況把握、自然環境等に関する保全検討、自然再生の実施という流れになると思う。

【細見委員】

- ・ 環境修復の言葉を入れておきたい。

【肥田野座長】

- ・ 自然再生の取り組みのところで、モニタリングを含めて追加すればどうか。そういう試みがあれば、積極的に評価するという形になる。

【三村委員】

- ・ 海岸保全計画ゾーニングに、人手を加えない(守らない)海岸が入るようになれば社会的に成熟した計画と呼べるであろう。また、避難・警報計画やハザードマップ作成、環境調査、緑地整備といったソフト的な施策を実施するための予算制度をつくる必要がある。

【細見委員】

- ・ 現在、その予算措置がないことは事実である。これからは努力したいという積極的なところで評価項目に挙げている。決意の表れといった感じである。

【肥田野座長】

- ・ ゴミ清掃への取り組みをきちんと評価し、頻度に応じて点数の差をつけるべき。

(3) しきい値の見直しについて

【三村委員】

- ・ しきい値は、全体的には良いと思う。過去の実績に従って、根拠をつけたということとは評価できる。

【清野委員】

- ・ 自然環境の場合は、数字よりもクライテリアを細かくすることで対応すべき。

【肥田野座長】

- ・ 災害の話のため質より量の観点であり、相対評価としたのが今回のポイントである。

(4) 感度分析について

【肥田野座長】

- ・ 環境を重視したいのであれば、重みだけではなく評価項目を増やさないといけないという結果になっている。

【清野委員】

- ・ 環境については、まず基準や評価項目をチェックし、次にそのウエイトを高めるという2段階の評価が行えればよい。

【三村委員】

- ・ 1点、2点の差で順位がつくほどの精度を持っているか疑問もある。

【事務局】

- ・ 大局で見れば防災重視の判断をしていたということで妥当と考えている。点数に差はでないが、意識を示すという意味で重みをつけるという考えもある。

【鳥居委員】

- ・ 縦軸・横軸(ケース1と2の比較とか)でどう移動したかを見ると分析しやすい。重みのメリハリが良く見えてこない方が気になる。

【清野委員】

- ・ 環境事業も雇用や観光等への経済効果もあるということを取り入れられないか。

【肥田野座長】

- ・ 趣旨は良いが技術的に定量的指標設定が難しい。今後の研究課題。

(5) 「公共事業評価システム研究会」への提言(案)について

【清野委員】

- ・ 自然公物をどう評価するかということは河川・海岸事業の特異性であり、その点がきちんと伝わるようにしていただきたい。

【三村委員】

- ・ 波及的效果により大きな重みをつけて、費用対便益よりも波及的效果の事項の方が海岸事業の主要な目的であると主張する考え方と、本来の目的を費用対効果の評価に取り込むという考え方がある。

【肥田野座長】

- ・ 難しいことは極めて困難ではあるけれども、やはり試みるべきだ。むしろ、環境の評価みたいなのを重視していくという立場から言うと、そちらももう少しポジティブにやったほうがいい。
- ・ 公共事業の評価は、国民にとってプラスであることを説明する視点から取り組んでいくというスタンスにしたほうがよい。

【清野委員】

- ・ 水循環に関する海岸や河川のあり方は、今の世代の経済か、次世代の幸福を考えるのか、道路などとは違うと思う。渡り鳥渡来地や海洋への貢献など日本列島の海岸生態系保全の価値は、地域益、国益だけでなく、地球的規模である認識が必要である。その価値が大きな意味で国益にもつながる認識が必要である。

【肥田野座長】

- ・ 次世代のことは、海岸利用や生物の多様性といった価値観の不確実性のあるものは、割引率4%を小さくするといった考えもある。
- ・ 公平性の概念について心理的な部分を評価するという視点は良い主張である。公平性、緊急性の概念を取り入れるべきだという主張にした方がよい。事業効果(効率性基準による費用便益分析)、波及的影響 緊急性、公平性、実施可能性の3本柱で評価する体系とする。

【三村委員】

- ・ 今の議論は、公共事業評価システム研究会からの宿題対応とは違うことになる。複線になるので、2本立てで宿題に答えてはどうか。

【事務局】

- ・ 時間的な問題もあるため、当面は方向性を示すこととしたい。

【肥田野座長】

- ・ 長期的に取り組むこととし、波及的影響 公平性、緊急性のウエイトが高いことで整理をお願いしたい。